

2014 年度 小委員会活動成果報告

(2015 年 2 月 9 日作成)

小委員会名	建築における未来の水環境検討小委員会		主 査 名：小瀬 博之 就任年月：2014 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (水環境運営運営委員会)		委員長名：田辺 新一 主 査 名：大塚 雅之
設 置 期 間	2013 年 4 月 ～ 2015 年 3 月		
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> ・水環境の未来のあり方を総合的な枠組みで検討し広く世間に伝えること ・水環境に関する教材を作成するにあたっての新たな表現事例の収集。絵図としての表現方法の検討。公表方法の検討。 		
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：無		
	主査：小瀬博之 (東洋大学) 幹事：中野民雄 (静岡文化芸術大学) 委員：小澤愉 (日建設計)、高橋達 (東海大学)、西川豊宏 (工学院大学)、藤田哲典 (都市再生機構)、結城晶博 (TOTO)、樋口佳樹 (日本工業大学)		
設置 WG (WG 名：目的)	なし		
2014 年度予算	34,000 円	ホームページ公開の有無：有 委員会 HP アドレス：http://news-sv. aij. or. jp/kankyo/s21/water	

項 目	自己評価
委員会開催数	6 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会 承認企画	
大会研究集会	
対外的意見表明・パ ブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得ら れた成果との関係)	初学者に興味を持ってもらうため、水環境に関する教材を、動画を用いて作成することを考え、その手始めに具体的な事例を収集し、事例集としてまとめることができた。
委員会活動の問題点 ・課題	動画を含めた効果的な学習教材という観点と、出版事業の見直しによる公表方法の見直しの両面を考慮して、今後も継続的に建築における未来の水環境に関する枠組みの構築とともに視覚的表現の実現を図る必要がある。

2014 年度 小委員会活動 自己評価

(中間年度評価・**最終年度評価**)

総合評価 (4段階評価)	A	B	C	D
総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)	<p>小委員会の活動目標を定め、今後の建築分野における水環境への配慮を広く世間に伝える目標を、建築の初学者あたりに定めて活動を開始した。</p> <p>水環境をはじめとする建築に関わる分野において公表されている文献を収集し、建築における水環境の全体像を図化する作業に取り掛かるための基礎的な資料を得た。</p> <p>建物内における水循環系、建物周辺における水循環系、地区・地域・都市における水循環系など、水環境全体を示す図や、機器の省エネルギー・生態系・温暖化・ヒートアイランド・水質汚濁などの各部における絵図を、さまざまなところで公表されているものを収集して、建築における水環境の全体像を図化する作業に取り組んだ。</p> <p>2008年12月に表明した「建物とその周辺における健全な水環境の形成に関する考え方」を継承して、健全な水環境の形成に向けて、総合的かつ具体的な活動に向けての準備を行うことができた。</p> <p>初年度の活動における「建築における水環境の環境側面と環境影響に関する項目の抽出、建築における水環境のライフサイクルに関する課題の抽出。」については、2年度の活動予定であった「事例・研究成果の収集。絵図としての表現方法の検討。公表方法の検討。」を先行して検討したため、必ずしも十分な成果が得られなかった。</p> <p>大学生初学者をターゲットとして、水環境に興味を抱くコンテンツの検討を行うとともに、コンテンツの提供形態について検討した上で、コンテンツの試作を行うことについては、本格的な試作までは至らなかったものの、これまで収集した事例をスライドにまとめ、小委員会ホームページに公表することができた。将来的に具体的な展開が図られるときの有用な基礎資料となるであろう。</p>			

- 総合評価は4段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
 - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
 - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から80%の達成度
 - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から70%の達成度
 - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。